

従前紙媒体でお送りしていた株主総会資料^(※)は、会社法改正による電子提供制度の施行に伴いインターネット上の当社ウェブサイト等で提供することとなりました。

本通知においては、施行後初年度の混乱を回避する観点から、議決権行使書用紙に加えて、招集ご通知及び株主総会参考書類を抜粋した紙媒体を株主の皆様へ提供しています。今後の株主総会招集手続きでは、開催案内等法令に定める事項を除き、紙媒体での資料提供を取りやめることもございますので、予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

なお、基準日（2023年3月31日）までに、書面交付請求をいただいた株主様には、法令及び当社定款の規定に基づき、省略された情報を除く株主総会資料が紙媒体で提供されます。

(※) 株主総会資料とは、招集ご通知、株主総会参考書類、事業報告、監査報告、計算書類、連結計算書類等を示します。

株主総会ご出席株主様へのお土産はございません。
何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

第106期 定時株主総会 招集ご通知

日時

2023年6月23日（金曜日）
午前10時

場所

京都市右京区梅津西浦町14番地
当社会議室

（末尾の「当社へのご案内」をご参照ください。）

決 議 事 項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）7名選任の件
第3号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件
第4号議案 当社株券等の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）更新の件

議決権行使期限

2023年6月22日（木曜日）
午後4時45分まで

証券コード 5985
2023年6月5日

株 主 各 位

京都市右京区梅津西浦町14番地

サンコール株式会社

代表取締役 大谷 忠雄
社長執行役員

第106期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。

さて、当社第106期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上に「第106期定時株主総会招集ご通知」として掲載しておりますので、次のいずれかのウェブサイトにアクセスのうえ、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

<https://www.suncall.co.jp/ir/meeting/>
<https://d.sokai.jp/5985/teiji/>



電子提供措置事項は、上記の各ウェブサイトのほか、東京証券取引所（東証）ウェブサイトにも掲載しておりますので、次の東証ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）にアクセスして、銘柄名（会社名）「サンコール」または証券コード「5985」（半角）を入力・検索し、「基本情報」、「縦覧書類／PR情報」を選択のうえ、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

なお、当日ご出席されない場合には、以下のいずれかの方法によって議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討のうえ、3頁の「議決権行使についてのご案内」に従って、議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

[インターネット等による議決権行使の場合]

当社指定の議決権行使ウェブサイト（<https://www.web54.net>）にアクセスしていただき、画面の案内に従って、2023年6月22日（木曜日）午後4時45分までに、議案に対する賛否をご入力ください。

なお、インターネット等による議決権行使に際しましては、4頁の「インターネット等による議決権行使のご案内」をご確認くださいませようお願い申し上げます。

[書面による議決権行使の場合]

同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2023年6月22日（木曜日）午後4時45分までに到着するようご返送ください。

敬 具

記

1. 日 時 2023年6月23日（金曜日）午前10時
2. 場 所 京都市右京区梅津西浦町14番地 当社会議室
3. 目的事項
報告事項
 1. 第106期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第106期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)計算書類の内容報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
- 第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）7名選任の件
- 第3号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件
- 第4号議案 当社株券等の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）更新の件

以 上

-
- ◎ 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
- ◎ 電子提供措置事項のうち、次に掲げる事項については、法令および当社定款第15条第2項の規定に基づき、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面には記載しておりません。
- ① 事業報告の「会社の体制および方針」
 - ② 連結計算書類の「連結株主資本等変動計算書」「連結注記表」
 - ③ 計算書類の「株主資本等変動計算書」「個別注記表」
- なお、これらの事項は、「第106期定時株主総会招集ご通知に際しての電子提供措置事項のうち法令及び定款に基づく書面交付請求による交付書面に記載しない事項」に掲載しております。したがって、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面に記載の事業報告、連結計算書類および計算書類は、会計監査人または監査等委員会が会計監査報告または監査報告を作成するに際して監査した事業報告、連結計算書類および計算書類の一部であります。
- ◎ 電子提供措置事項に修正が生じた場合は、その旨、修正前の事項および修正後の事項を前述の各ウェブサイトに掲載させていただきます。
- ◎ 発熱、咳、くしゃみなど風邪の症状がある等、体調のすぐれない株主様は、ご出席をお控えください。
- ◎ 株主総会終了後の株主交流会は実施いたしません。

議決権行使についてのご案内

議決権は、以下の3つの方法により行使いただくことができます。

インターネットで議決権を行使される場合



パソコン、スマートフォンから議決権行使サイト (<https://www.web54.net>) にアクセスし、議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」および「パスワード」をご入力いただき、画面の案内に従って賛否をご入力ください。

行使期限 2023年6月22日(木曜日) 午後4時45分入力完了分まで

- ① 株主様以外の方による不正アクセス（“なりすまし”）や議決権行使内容の改ざんを防止するため、ご利用の株主様には、議決権行使サイト上で「パスワード」の変更をお願いすることとなりますのでご了承ください。
- ② 株主総会の招集の都度、新しい「議決権行使コード」および「パスワード」をご通知いたします。
- ③ 議決権行使サイトへのアクセスに際して発生する費用（インターネット接続料金・電話料金等）は株主様のご負担となります。

書面（郵送）で議決権を行使される場合



議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、切手を貼らずにご投函ください。

行使期限 2023年6月22日(木曜日) 午後4時45分到着分まで

書面（郵送）により議決権を行使された場合の議決権行使書において、議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとしてお取り扱いいたします。

株主総会にご出席される場合



議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。

日時 2023年6月23日(金曜日) 午前10時

※ インターネット等により複数回にわたり議決権を行使された場合は、最後に行われたものを有効な議決権行使として取り扱わせていただきます。

※ インターネット等と書面（郵送）により重複して議決権を行使された場合は、インターネット等による議決権行使の内容を有効とさせていただきます。

インターネット等による議決権行使のご案内

インターネットにより議決権を行使される場合は、パソコン、スマートフォンから当社の指定する議決権行使ウェブサイトへアクセスし、画面の案内に従ってご行きますようお願い申し上げます。

議決権行使ウェブサイト <https://www.web54.net>



バーコード読み取り機能付のスマートフォンを利用して右上の2次元コードを読み取り、議決権行使ウェブサイトへ接続することも可能です。なお、操作方法の詳細についてはお手持ちのスマートフォンの取扱説明書をご確認ください。

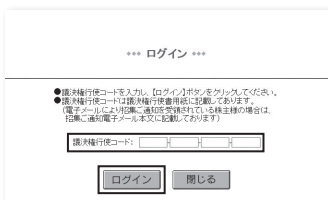
議決権行使期限：2023年6月22日（木曜日）午後4時45分入力完了分まで

1 議決権行使ウェブサイトへアクセスしてください。



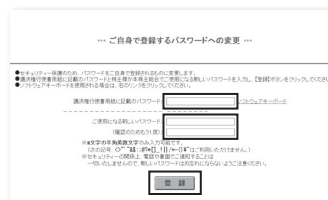
・「次へすすむ」をクリック

2 議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」をご入力ください。



・「議決権行使コード」を入力
・「ログイン」をクリック

3 議決権行使書用紙に記載された「パスワード」をご入力ください。



・「パスワード」を入力
・実際にご使用になる新しいパスワードを設定してください
・「登録」をクリック

※操作画面はイメージです。

以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

インターネットによる議決権行使に関するお問い合わせ

三井住友信託銀行 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル
フリーダイヤル 0120-652-031 (受付時間 9:00~21:00)

機関投資家の皆様は、株式会社ICJの運営する議決権電子行使プラットフォームをご利用いただくことができます。

株主総会参考書類

議案および参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

当社は2022～2024年度 中期経営計画 GLOBAL GROWTH PLAN 2024(GGP24)に基づき株主価値の向上のために、資本収益性とBSマネジメントを意識した経営を進めております。中期経営計画(GGP24)における株主還元方針は、ROE9.0%を超過するまで配当性向75%を維持するものです(配当下限20円)。

当期の期末配当につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

期末配当に関する事項

- (1) 配当財産の種類
金銭
- (2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその総額
当社普通株式1株につき9円
総額 273,661,182円
なお、当期の年間配当金は、1株につき中間配当金11円を含め、20円となります。
- (3) 剰余金の配当が効力を生ずる日
2023年6月26日

第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）7名選任の件

取締役（監査等委員である取締役を除く。以下、本議案において同じ。）全員（7名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。

つきましては、取締役7名の選任をお願いしたいと存じます。

なお、本議案については、独立社外取締役が委員長を務める「指名・報酬諮問委員会」の答申を受け決定しております。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名	現在の当社における地位・担当		
1	おおたに ただお 大谷 忠雄	再任	代表取締役 社長執行役員	
2	なら ただし 奈良 正	再任	代表取締役 副社長執行役員 開発本部長 兼 製品戦略室長	
3	かなだ まさとし 金田 雅年	再任	取締役 常務執行役員 企画・管理部門長	
4	すぎむら かずとし 杉村 和俊	再任	取締役 常務執行役員 サスペンション部門長	
5	みやけ よしひろ 三宅 義浩	新任	社外	—
6	かぎや ふみこ 鍵谷 文子	再任	社外	独立
7	おざわ ひろこ 小澤 浩子	新任	社外	独立

(注) 当社は、取締役全員を被保険者として、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険（D&O保険）契約を締結しており、本議案が原案どおり承認され、取締役に就任した場合には、当該候補者は当該保険契約の被保険者となります。当該保険契約では、被保険者である役員等がその職務の執行に関し責任を負うこと、または、当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害について填補することとされています。ただし、法令違反の行為であることを認識して行った行為に起因して生じた損害は填補されないなど、一定の免責事由があります（保険料は特約部分も含め会社が全額負担しており、被保険者の実質的な保険料負担はありません。当該保険契約には免責額の定めを設けており、当該免責額までの損害については填補の対象としないこととされています。）。なお、当社は、当該保険契約を任期途中に同様の内容で更新する予定であります。

監査等委員会の意見

当社の取締役の選任については、「指名・報酬諮問委員会」に監査等委員である独立社外取締役2名が出席し意見を述べるとともに、監査等委員会において候補者選任の方針、選任の手続を共有し協議いたしました。

この結果、監査等委員会としては、取締役の選任の内容について妥当であると判断し会社法の規定に基づき株主総会において陳述すべき特段の事項はないとの結論に至りました。

1 おおたに ただ お
大谷 忠雄

生年月日	1960年9月27日生	所有する当社の株式数	53,471株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	<p>1985年4月 当社入社 2004年4月 当社 デジトロ製品Ⅱ部門 SMP部長 2011年4月 当社 執行役員 サスペンション事業部門長代理 2011年6月 当社 執行役員 サスペンション事業部門長 2014年4月 当社 常務執行役員 情報・精密製品部門長 2015年6月 当社 取締役 常務執行役員 情報・精密製品部門長 2015年11月 当社 取締役 常務執行役員 生産・事業管理副本部長 2017年4月 当社 取締役 常務執行役員 生産事業本部長 2017年6月 当社 代表取締役 専務取締役 常務執行役員 生産事業本部長 2018年6月 当社 代表取締役社長 2020年6月 当社 代表取締役 社長執行役員 現在に至る</p> <p>[重要な兼職] 該当事項はありません</p>		
取締役候補者とした理由	<p>当社デジトロ製品部門、サスペンション部門および情報・精密製品部門等のさまざまな事業分野において優れた手腕を発揮され、2015年6月の当社取締役就任、2018年6月の代表取締役社長就任からも卓越した経営手腕を発揮されていることから、持続的な企業価値向上の実現のために適切な人材と判断したためです。</p>		

- (注) 1. 大谷忠雄氏と当社との間に特別の利害関係はありません。
 2. 上記所有株式数には、サンコール役員持株会名義の実質所有株式数が含まれております。

2 奈良 正

生年月日	1960年8月31日生	所有する当社の株式数	9,186株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	<p>1985年4月 トヨタ自動車株式会社 入社</p> <p>2007年1月 ダイハツ工業株式会社 第2エンジン部出向 エンジン主査</p> <p>2009年1月 トヨタ自動車株式会社 第2エンジン技術部 第22エンジン設計室 ユニット主査</p> <p>2012年1月 Toyota Motor Asia Pacific Engineering & Manufacturing Co.,Ltd. (バンコク) 出向 Vice President</p> <p>2016年1月 トヨタ自動車株式会社 ユニット統括部 パワートレーン企画室 主査</p> <p>2016年8月 同社 エンジン設計部 エンジン開発統括室 主査</p> <p>2017年1月 当社 精密機能加工 I 部門長付</p> <p>2017年4月 当社 執行役員 精密機能加工 I 部門長</p> <p>2019年4月 当社 常務執行役員 精密機能加工 I 部門長</p> <p>2019年6月 当社 取締役 常務執行役員 精密機能加工 I 部門長</p> <p>2020年6月 当社 代表取締役 専務執行役員 製品戦略室長</p> <p>2021年8月 当社 代表取締役 専務執行役員 開発本部長 兼 製品戦略室長</p> <p>2022年6月 当社 代表取締役 副社長執行役員 開発本部長 兼 製品戦略室長 現在に至る</p> <p>[重要な兼職] 該当事項はありません</p>		
取締役候補者とした理由	<p>長年にわたるトヨタ自動車株式会社等における技術部門の責任者等としてのさまざまな経験に加え、2017年4月の当社執行役員就任以来、担当部門において、その経験を活かし優れた手腕を発揮され、2019年6月の当社取締役就任、2020年6月の代表取締役就任からも卓越した経営手腕を発揮されていることから、持続的な企業価値向上の実現のために適切な人材と判断したためです。</p>		

- (注) 1. 奈良正氏と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 上記所有株式数には、サンコール役員持株会名義の実質所有株式数が含まれております。

3 かなだ まさとし
金田 雅年

生年月日	1961年4月21日生	所有する当社の株式数	8,433株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	<p>1986年4月 伊藤忠商事株式会社 入社 2002年7月 ITOCHU Automobile America Inc.出向 Vice President(デトロイト駐在) 2007年4月 伊藤忠商事株式会社 自動車事業推進部 部品事業課長 2012年6月 伊藤忠オートモービル株式会社出向 経営企画室長 2017年4月 同社 取締役 経営企画室長 2017年6月 当社 取締役 (上記兼任) 2019年4月 当社出向 常務執行役員 業務・管理副部門長 2020年6月 当社 常務執行役員 企画・管理部門長 2022年6月 当社 取締役 常務執行役員 企画・管理部門長 現在に至る</p> <p>[重要な兼職] SUNCALL AMERICA INC.取締役</p>		
取締役候補者とした理由	<p>グローバルにビジネスを展開する企業においてさまざまな分野で実績を残され、また2022年6月の当社取締役就任以降においても、その卓越した経営手腕により当社の経営の一端を担ってこられたことから、今後も当社の持続的な企業価値向上の実現のために適切な人材と判断したためです。</p>		

- (注) 1. 金田雅年氏と当社との間に特別の利害関係はありません。
 2. 上記所有株式数には、サンコール役員持株会名義の実質所有株式数が含まれております。

4 ^{すぎむら}杉村 ^{かずとし}和俊

生年月日	1963年5月14日生	所有する当社の株式数	17,645株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	<p>1986年4月 当社入社 2004年3月 SUNCALL CO.,(H.K.)LTD. 董事総経理（香港駐在） 2009年4月 当社 業務・管理部門 財務・業務管理部長 2013年4月 当社 業務・管理部門長 2014年4月 当社 執行役員 業務・管理部門長 2017年4月 当社 常務執行役員 業務・管理部門長 2020年6月 当社 取締役 常務執行役員 サスペンション部門長 現在に至る</p> <p>[重要な兼職] SUNCALL HIGH PRECISION(THAILAND)LTD. 取締役</p>		
取締役候補者とした理由	<p>当社業務・管理部門において優れた手腕を発揮され、また2020年6月の当社取締役就任以降においても、その卓越した経営手腕により当社の経営の一端を担ってこられたことから、今後も当社の持続的な企業価値向上の実現のために適切な人材と判断したためです。</p>		

- (注) 1. 杉村和俊氏と当社との間に特別の利害関係はありません。
 2. 上記所有株式数には、サンコール役員持株会名義の実質所有株式数が含まれております。

5 ^{みやけ}三宅 ^{よしひろ}義浩 (新任)

生年月日	1968年3月12日生	所有する当社の株式数	0株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	<p>1992年 4月 株式会社神戸製鋼所 入社 2014年 4月 同社 鉄鋼事業部門 加古川製鉄所 薄板部長 2017年 4月 同社 鉄鋼事業部門 薄板商品技術部長 2020年 4月 同社 鉄鋼アルミ事業部門 自動車板材商品技術部長 2021年 4月 同社 鉄鋼アルミ事業部門 加古川製鉄所 副所長 2022年 4月 同社 理事 鉄鋼アルミ事業部門 加古川製鉄所 副所長 2023年 4月 同社 執行役員 現在に至る</p> <p>[重要な兼職] 株式会社神戸製鋼所 執行役員</p>		
社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要	<p>長年にわたる株式会社神戸製鋼所における製造責任者としての経験や、技術面を含む専門知識から、当社の経営に対する監督とチェック機能を期待したためです。上記の理由により、社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。</p>		

- (注) 1. 三宅義浩氏と当社との間に特別の利害関係はありません。
 2. 三宅義浩氏は、社外取締役候補者であります。
 三宅義浩氏の兼職先である株式会社神戸製鋼所は、当社の主要株主であり、材料供給元ですが、それ以外の特別な関係はありません。
 3. 三宅義浩氏の選任が承認された場合、当社は同氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第425条第1項に定める額を最低責任限度額として、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であります。

6 ^{かぎや} 鍵谷 ^{ふみこ} 文子

生年月日	1983年1月10日生	所有する当社の株式数	0株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	<p>2009年1月 中本総合法律事務所 入所 2014年4月 中本総合法律事務所 パートナー就任 現在に至る</p> <p>2020年4月 国立大学法人神戸大学 大学院法学研究科法曹実務准教授 2021年4月 同大学 大学院法学研究科法曹実務教授 現在に至る</p> <p>2022年6月 当社 取締役 現在に至る</p> <p>[重要な兼職] 中本総合法律事務所 パートナー 国立大学法人神戸大学 大学院法学研究科法曹実務教授 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 倫理委員会委員</p>		
社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要	<p>弁護士として企業法務をはじめ豊富な経験と高い識見を有しておられ、独立した立場から当社企業活動全般にわたる助言と監督等を期待したためであります。なお、同氏は、過去に社外役員となること以外の方法で会社の経営に関与した経験はありませんが、上記の理由により、社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。</p>		

- (注) 1. 鍵谷文子氏と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 鍵谷文子氏は、現在、当社の社外取締役であり、当社の社外取締役としての在任期間は、2022年6月24日開催の第105期定時株主総会において選任されてから本総会終結の時をもって1年間です。
3. 当社は鍵谷文子氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員としており、同氏の選任が承認された場合、引き続き同氏を独立役員とする予定であります。
4. 当社は、鍵谷文子氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第425条第1項に定める額を最低責任限度額として、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、同氏が再任された際には、当該契約を継続する予定であります。

7 おざわ ひろこ
小澤 浩子 (新任)

生年月日	1961年12月15日生	所有する当社の株式数	0株
略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	<p>1985年 4月 ソニー株式会社 (現ソニーグループ株式会社) 入社 1991年 8月 Sony Deutschland GmbH (ソニー・ドイツ) 出向 Personal Audio Product Manager 1997年12月 ソニー株式会社 (現ソニーグループ株式会社) 海外マーケティング本部 1999年 8月 同社 イベント&スポーツエンタテインメント推進部 2001年 7月 株式会社ソニー・ピクチャーズエンタテインメント出向 2007年 9月 株式会社AXNジャパン出向 取締役副社長 兼 ゼネラルマネージャー 2008年10月 株式会社ミステリチャンネル出向 取締役副社長 兼 ゼネラルマネージャー (上記兼任) 2015年 6月 株式会社アニマックスブロードキャスト・ジャパン出向 社外取締役 (上記兼任) 2015年10月 株式会社スター・チャンネル出向 代表取締役副社長 2018年11月 株式会社ソニー・ピクチャーズエンタテインメント Vice President 2021年 6月 株式会社ノジマ 社外取締役 2022年 5月 株式会社PR TIMES 社外取締役 現在に至る 2022年 6月 株式会社セシール 社外取締役 現在に至る 2023年 3月 株式会社アウトソーシング 社外取締役 現在に至る</p> <p>[重要な兼職] 株式会社PR TIMES 社外取締役 株式会社セシール 社外取締役 株式会社アウトソーシング 社外取締役</p>		
社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要	<p>ソニーグループにおいて、国内外で責任者・経営者としての豊富な経験と知見を有しておられることから、経営の監督とチェック機能を期待したためであります。 上記の理由により、社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。</p>		

- (注) 1. 小澤浩子氏と当社との間に特別の利害関係はありません。
 2. 小澤浩子氏は、社外取締役候補者であります。
 3. 小澤浩子氏の選任が承認された場合、同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員とする予定であります。
 4. 小澤浩子氏の選任が承認された場合、当社は同氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第425条第1項に定める額を最低責任限度額として、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であります。

第3号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

監査等委員である取締役が法令に定める員数を欠くことになる場合に備え、あらかじめ補欠の監査等委員である取締役1名の選任をお願いいたしたいと存じます。

本議案につきましては、監査等委員会の同意を得ております。

補欠の監査等委員である取締役候補者は、次のとおりであります。

たなか ひとし
田中 等

生年月日	1952年5月7日生	所有する当社の株式数	0株
略歴および重要な兼職の状況	1979年4月 大阪弁護士会登録、淀屋橋合同法律事務所(現弁護士法人淀屋橋・山上合同)入所 1986年1月 同事務所 パートナー 現在に至る [重要な兼職] 弁護士法人淀屋橋・山上合同 パートナー		
補欠の社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要	第三者の視点から当社の経営に対する監督とチェック機能を期待したためであります。また同氏の長年にわたる弁護士としての経験・見識から監査等委員である社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。		

(注) 1. 田中等氏と当社との間に特別の利害関係はありません。

2. 田中等氏は、補欠の社外取締役候補者であります。

田中等氏の兼職先である弁護士法人淀屋橋・山上合同との間で顧問契約を締結しておりますが、当該弁護士法人への対価の支払額は僅少であり、それ以外の特別な関係はありません。

3. 田中等氏が監査等委員である社外取締役に就任した場合、当社は同氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第425条第1項に定める額を最低責任限度額として、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であります。

4. 当社は、取締役全員を被保険者として、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険（D&O保険）契約を締結しており、本議案が原案どおり承認され、監査等委員である取締役が法令に定める員数を欠くことになるなどにより、当該候補者が監査等委員である社外取締役に就任した場合には、当該候補者は当該保険契約の被保険者となります。当該保険契約では、被保険者である役員等がその職務の執行に関し責任を負うこと、または、当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害について填補することとされています。ただし、法令違反の行為であることを認識して行った行為に起因して生じた損害は填補されないなど、一定の免責事由があります（保険料は特約部分も含め会社が全額負担しており、被保険者の実質的な保険料負担はありません。当該保険契約には免責額の定めを設けており、当該免責額までの損害については填補の対象としないこととされています。）。なお当社は、当該保険契約を任期途中に同様の内容で更新する予定であります。

第4号議案 当社株券等の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）更新の件

当社は、2008年6月23日開催の当社第91期定時株主総会において、当社株券等の大規模買付行為への対応策（以下「旧プラン」といいます。）を導入し、その後、2011年6月24日開催の当社第94期定時株主総会、2014年6月25日開催の当社第97期定時株主総会、2017年6月23日開催の第100期定時株主総会および2020年6月24日開催の当社第103期定時株主総会において、旧プランの更新について、株主の皆様からご承認をいただきましたが、更新後の旧プランの有効期限は、本定時株主総会終結の時となっております。

当社は、旧プランの更新後の社会・経済情勢の変化、買収防衛策をめぐる動向および議論の進展を受け、旧プランがさらに当社の企業価値および株主共同の利益に沿うものとなるよう検討を行いました。

その結果、当社は、2023年5月12日開催の当社取締役会において、本定時株主総会における株主の皆様のご承認が得られることを条件に、旧プランを更新することを決議いたしました（以下、改定後の対応策を「本プラン」といいます。）。

本議案は、本プランへの更新につきまして、株主の皆様のご承認をお願いするものであります。

本プランの詳細は下記のとおりですが、旧プランからの実質的な内容の変更は行っておりません。

なお、本プランへの更新を決定した取締役会には、当社監査等委員である取締役4名（うち社外取締役3名）全員が出席し、いずれの監査等委員からも本プランの更新について異議は出ておりません。

また、会社法、金融商品取引法ならびにそれらに関する規則、政令、内閣府令および省令等（以下、総称して「法令等」といいます。）に改正（法令等の名称の変更や従前の法令等を継承する新たな法令等の制定を含みます。）があり、これらが施行された場合には、本プランにおいて引用する法令等の各条項は、当社取締役会が別途定める場合を除き、当該改正後のこれらの法令等の各条項を実質的に継承する法令等の各条項に、それぞれ読み替えられるものいたします。

記

I 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

1. 基本方針の内容

当社取締役会は、公開会社として当社株式の自由な売買を認める以上、特定の者の大規模な株式買付行為に応じて当社株式の売買を行うかどうかは、最終的には当該株式を保有する株主の皆様のご判断に委ねられるべきものと考えます。

しかしながら、対象会社の経営陣の賛同を得ずに一方的に行われる大規模買付提案の中には、その目的等からみて企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が大規模買付提案の内容等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの等、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

また、当社グループの企業価値を将来にわたって向上させるためには、中長期的な視点での企業経営が必要不可欠であり、そのためには、お客様、お取引先、従業員、地域社会等との良

好な関係の維持はもとより、1943年の創業以来、当社が築き上げてきたさまざまな専門的・技術的なノウハウの活用等、当社グループの深い理解による事業の運営が必須です。

したがって、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方といたしましては、当社の企業理念、企業価値のさまざまな源泉および当社を支えていただいているステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保、向上させるものでなければならぬと考えております。したがって、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある不適切な大規模買付提案またはこれに類似する行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当でないと考えております。

2. 基本方針の実現に資する取組み

当社および当社グループは、上記1の基本方針の実現のために、次のとおりさまざまな取組みを行っております。

(1) 基本的な考え方

- ア 株主の権利を尊重し、平等性を確保する。
- イ ステークホルダーとの相互利益を考慮し、適切に協働する。
- ウ 会社情報を適切に開示し、透明性を確保する。
- エ 取締役会は、「ビジネステーマ・戦略」を明確に示し、幅広い視野で客観的に“リスクの管理体制の構築”・“業務執行の監督”を行い、リーダーシップを発揮する。
- オ 株主の声に耳を傾け、また当社の経営方針に理解を得る機会を持ち、建設的な対話から、それを経営に反映させる体制整備に取り組む。

(2) ガバナンス等の体制

ア 企業統治の体制

複数の社外取締役を含む監査等委員である取締役を置くことで、取締役会の監督機能を強化し、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることに加え、監督と業務執行を分離し迅速な意思決定を行うため監査等委員会設置会社に移行し、経営の健全性・透明性をさらに向上させるべく、コーポレート・ガバナンス体制の強化に努めてまいります。

イ 内部統制システム

わたしたちはグループ全体において、職務の執行が法令・定款に適合することを確保する体制、損失の危険を管理する体制、職務の執行が効率的に行われることを確保する体制等を整備し、これらを運用しております。「内部統制システムの充実」は、業務の効率化、適正化等を通じてさまざまな利益をもたらすと同時に、証券市場に対する内外の信頼を高め、当社を取り巻く全てのステークホルダーに多大な利益をもたらすものと認識しております。業務ルールの標準化・文書化による責任・権限の明確化・業務の可視化、IT活用による不正・誤謬の発生しないシステムのさらなるレベルアップに取り組んでおります。

(3) 事業の概要

ア 材料関連事業

サンコールの最大の強みともいえるべき、精密機能材料から製品までの一貫生産工程において、材料工程を担う部門が材料関連事業です。コア技術である「塑性加工技術」つまり「伸ばす」、「曲げる」を基本に、引抜加工を施すダイス開発や圧延技術、熱処理技術を応用して、主に自動車部品に使われる高精度なばねに用いる線材を生産します。

ばねに要求される高応力・高耐久性を実現するため、当社では耐疲労・耐へたり特性に優れた鋼材の成分設計を製鋼メーカーとともに取り組んでいます。それにより介在物

制御された最高の素材を調達します。納入されたすべての線材は全周全長に渡り表面層を皮削し、製品として有害な疵、脱炭層を除去します。また環境に配慮して業界に先駆けて導入した、鉛を使用しない流動槽方式の熱処理ラインによってパテンティング処理を行います。表面肌のクリーン化を図るため、自動洗滌設備を用いて、ばね用線の高性能化を実現しています。

品質に万全を期すため、インラインで渦流探傷機を用いて非破壊試験を実施します。連続疵を検出する回転プローブ方式と、局部的な不連続疵を検出する貫通コイル方式の2種類の検査によるインライン探傷で、全長品質保証を行なっています。

材料関連事業は、地産地消でスムーズな供給を行うため、そして災害時等でも事業継続を可能にする必要から、日本・中国・メキシコの世界3極体制で展開しています。これによりサンコール国内の高い品質とフレキシブルな対応を、海外でも速やかに届け出すことができます。

イ 自動車関連事業

特に厳しく安全性が要求される事業です。自動車の基幹構成であるエンジン、トランスミッション、安全装置用部品において、当社の機能材料から加工までの一貫生産の強みを活かし、安全性はもちろん、環境対応および燃費の改善・向上に貢献できる材料開発、製品開発を行っています。またお客様に対して、より高耐久、小型化、軽量化に繋がるご提案ができるよう、厳しい品質保証体制のもと、さらなる高精度、高品質なものづくりを目指して日々挑戦しています。

また近年、急加速する環境対応車（HEV、EV、FCV等）へのシフトに対応すべく、技術開発を進めています。たとえば当社のコア技術を活かし、ロス低減と占積率をUPすることにより省スペース化を可能にするため、銅やアルミ材を異形加工した材料をフォーミング加工すると同時に、プレスとの組合せにより最適な工程設計を実施しております。さらにでき上がった製品にアフター加工で絶縁を施す、あるいはシャント抵抗を組み合わせるといった複合技術を用い、お客様の設計自由度の向上に寄与できる製品をご提案しております。代表的な製品として、リアクター関連、バスバー、シャントonバスバーを中心に、モーター関連部品、バッテリー関連部品等でお客様のご要望に対応していきます。

ものづくりのグローバル化が急速に広がっています。当事業では主軸の弁ばね、リングギア・ドライブプレート、シートベルト関連製品を中心に、北米、中国、ASEANをベースとした供給体制を整えています。また万が一、災害に見舞われても事業継続ができるように、BCP (Businesss Continuity Planning) を推進し、海外拠点より速やかに供給できる体制づくりに努めています。

ウ ハードディスク用サスペンション事業

私たちの日常生活で生み出されているデジタルデータは日々増加しており、安全で大きな保存場所が必要となっています。当事業の製品は、その保存場所として安全性とコストパフォーマンスで最も優れるハードディスクドライブに使用されている板ばねです。信号を読み書きする磁気ヘッドを支えながら、数十ナノメートル単位で位置決めを実現する、小さいながらも高い精度を持つ機能部品です。当社では長年培った材料技術と精密加工技術、そして自動制御を駆使した生産技術でサスペンションの設計から生産まで行なっています。

ハードディスク用サスペンションに求められる機能は、単に動きを伝達する受動部品

から、自分自身で駆動する能動部品へと変化しており、合わせて工業製品として極限レベルの精度を要求されています。当事業では、製造する上で最も重要となる金型や治具を自社設計し、独自の微細加工技術を用いて製作しています。また実際の生産についても国内と海外でオリジナル装置を用いて世界でも有数の生産性を実現させており、自動化はもちろんのこと装置自身が判断しながら良品のみを生産する装置を開発しています。これらによって高精度、高信頼性を兼ね備えた製品を提供しています。

ハードディスク用サスペンションは、全体としては大きな伸びは期待できないマーケットとなりつつあります。しかしそこで培われた独自技術を用いて、ナノレベルの機能提供と今後発展する分野に注力することで、事業の拡大を目指していきます。

エ プリンター関連事業

セラミックコーティング型プリンターローラーを1995年に開発して以来、インクジェットプリンター用セラミックローラーのパイオニアとして世界No1の販売実績を誇っています。このローラーの出現により美しい写真印刷が可能となり、またA6からA0サイズまで幅広い要求に対応できるようになる等、これ以降のインクジェットプリンターを進化させる大きな原動力となりました。

当社は無垢材の事務機器用シャフト、樹脂コートTUBEシャフト、TUBEシャフトの3種類のセラミックコーティングローラーを供給できる唯一のメーカーであり、なかでも樹脂コートTUBEシャフトはオリジナル開発商品です。樹脂コートTUBEシャフト、TUBEシャフトは中空構造のため、質量が無垢ローラーの約1/3。そのため完成品後の落下試験に対する負荷が小さくなり、軸支持部も小型化や低コスト化が図れます。これにより梱包緩衝材を小さくすることが可能となり、お客様における輸送費削減にも貢献しております。

これら長尺で軽量、精度の良いシャフトを生み出す技術は、ローラー用途以外にキャリッジガイドシャフトやモーターシャフト、カラフルに色付け可能な樹脂コーティングの特徴を活かした傘の主軸やシェード巻取り軸、またヘッドレストシャフト等の自動車用にも利用することが可能です。供給体制としてはタイ、中国、ベトナムに製造拠点を有し、不測の事態に対する対策も十分です。また国内開発拠点には開発者が常駐しており、新用途のローラー開発に対する要望にも迅速に対応できる体制が整っています。

オ 通信関連事業

絶え間なく発展し続けるインターネット。それに伴う世界の情報通信網の構築と発展には、それまでの通信網の接続に使用されていた銅線ケーブルから光ファイバーケーブルへの交換が必須でした。この光ファイバーケーブルの先端には、情報通信機器に接続させるための光コネクタと光アダプタが必要となります。光コネクタには、ミクロン単位の微小なずれも許されない精密さが要求されます。競合他社を寄せ付けない当社の精密加工技術が、ここに活かされています。

当社の通信関連事業は、1995年にSCコネクタのライセンス取得以来、情報通信用光コネクタの開発・製造・供給を一貫して自社で行い、日本国内市場のみならず、北米、アジア、欧州市場に向けて、高品質で競争力のある製品を提供しています。1998年にはLCコネクタのライセンスを取得し、2000年には北米・欧州市場の販売拠点となる現地法人SUNCALL AMERICA INC.を開設しました。2002年には、香港の現地法人SUNCALL CO., (H.K.) LTD.が、アジア市場のお客様向けに製品販売を開始しました。自由市場における価格競争力を促進するため、2006年に製造を中国深センの自社工場

Suncall Technologies (SZ) Co., Ltd.に移管しました。そして2017年、米国のグラスに営業拠点を開設し、今日に至っています。

インターネットの普及は、今日ではSNSやショッピング、遠隔医療、遠隔教育等の用途にまで拡大し、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を世界中の多くの人々が利用するようになってきました。さらに光ファイバーは、交通機関や産業用ロボット、放送、医療、エネルギー産業等にも利用されるようになりました。また終わりなき高速ブロードバンド化の中、お客様の要求に応える新たな製品の開発、製造、供給に寄与し、さらなる市場の活性化に貢献していきます。

II 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み（当社株券等の大規模な買付行為への対応策）

当社は、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みとして、当社株券等の大規模な買付行為への対応策（本プラン）を更新いたします。具体的には、以下に定める内容の合理的なルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）を設定いたします。

1. 本プランの発動に係る手続

(1) 対象となる大規模買付行為

本プランは下記①または②に該当する当社株式の買付けまたはこれに類似する行為（ただし、当社取締役会が承認したものを除き、当該行為を、以下「大規模買付行為」といいます。）がなされる場合を適用対象とします。大規模買付行為を行う者または提案する者（以下「大規模買付者」といいます。）は、予め本プランに定められる手続に従うこととします。

① 当社が発行者である株券等¹について、保有者²およびその共同保有者³の株券等保有割合⁴が20%以上となる買付け

② 当社が発行者である株券等⁵について、公開買付け⁶に係る株券等の株券等所有割合⁷およびその特別関係者⁸の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付け

(2) 大規模買付者に対する情報提供の要求

大規模買付者は、当社取締役会が別段の定めをした場合を除き、大規模買付行為の実行に先立ち、当社取締役会に対して、以下の各号に定める情報（以下「本必要情報」といいます。）および当該大規模買付者が大規模買付行為に際して本プランに定める手続を遵守する旨の誓約文言等を記載した書面（以下「買付説明書」と総称します。）を当社の定める書式により提出していただきます。なお、買付説明書を含む大規模買付者からの意見、応答等における当社との使用言語はすべて日本語に限りします。

当社取締役会は、後記の独立委員会の助言を受けて、当該買付説明書の記載内容が本必要情報として不十分であると判断した場合には、適宜回答期限（原則として当社取締役会が買付説明書を受領した後60日間を上限といたします。）を定めた上で、大規模買付者に対し、追加的に情報を提供するよう求めることがあります。この場合、大規模買付者においては、かかる情報を追加的に提供していただきます。

- ① 大規模買付者およびそのグループ（共同保有者、特別関係者および（ファンドの場合は）各組合員その他の構成員を含みます。）の詳細（具体的名称、資本構成、事業内容、財務内容、役員の名前および略歴、株券等の所有状況および取引状況等を含みます。）
- ② 大規模買付行為をする株券等の種類、大規模買付行為の目的、方法および内容（経営参画の意思の有無、大規模買付行為の対価の価格・種類、買付予定の株券等の数および大規模買付行為を行った後における株券等所有割合、大規模買付行為の時期、関連する取引の仕組み、大規模買付行為の方法の適法性等を含みます。なお、大規模買付行為の適法性については、弁護士による意見書をご提出いただくこととします。）
- ③ 大規模買付行為に際しての第三者との間における意思連絡の有無および意思連絡が存する場合はその相手方の概要ならびに当該意思連絡の具体的な態様および内容
- ④ 大規模買付行為の価格の算定根拠（算定の前提事実、算定方法、算定の経緯、算定に用いた数値情報および大規模買付行為にかかる一連の取引により生じることが予想されるシナジーの内容、そのうち少数株主に対して分配されるシナジーの内容を含みます。）
- ⑤ 大規模買付行為の資金の裏付け（資金の提供者（実質的提供者を含みます。）の具体的な名称、調達方法、関連する取引の内容を含みます。）
- ⑥ 大規模買付行為の後における当社および当社グループの経営方針、事業計画、資本政策および配当政策
- ⑦ 大規模買付行為の後における当社の従業員、労働組合、取引先、顧客、地域社会その他の当社に係る利害関係者の処遇等の方針
- ⑧ 当社の他の株主との利益相反を回避するための具体的方策
- ⑨ 反社会的勢力ないしテロ関連組織との関連の有無（直接・間接を問いません。）およびこれらに対する対処方針
- ⑩ その他当社取締役会または独立委員会が合理的に必要と判断する情報

(3) 大規模買付行為の内容の検討・大規模買付者との交渉・代替案の検討

① 当社取締役会による検討作業

大規模買付者から情報・資料等（追加的に要求したのものも含みます。）の提供が十分になされたとき当社取締役会が認めた場合、当社取締役会は、対価を円貨現金のみとする公開買付けによる当社全株式の買付けの場合は、原則として60日間（初日不算入）を超えない検討期間、その他の大規模買付行為の場合は原則として90日間（初日不算入）を超えない検討期間（以下「取締役会検討期間」といいます。）を設定し速やかに開示します。

ただし、独立委員会が取締役会検討期間内に対抗措置の発動または不発動の勧告を行うに至らないこと等の理由により、当社取締役会が取締役会検討期間内に対抗措置の発動または不発動等の決議に至らないことにつきやむを得ない事情がある場合、当

社取締役会は、その決議により、必要な範囲内で取締役会検討期間を最大30日間延長することができるものとします。当社取締役会が取締役会検討期間の延長を決議した場合、当該決議された具体的期間およびその具体的期間が必要とされる理由を適用のある法令および金融商品取引所規則等に従って適時適切に株主の皆様に対して開示します。

なお、当社取締役会は、取締役会検討期間内において大規模買付者から提供された情報・資料等に基づき、また、必要に応じて外部専門家等（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家）の助言を得ながら、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上の観点から、大規模買付者による大規模買付行為の内容の検討を行い、当社取締役会による代替案の検討および大規模買付者と当社取締役会の事業計画等に関する情報収集・比較検討等を行います。大規模買付者は、取締役会検討期間において、当社取締役会が、検討資料その他の情報提供、協議・交渉等を求めた場合には、速やかにこれに応じなければならないものとします。

② 株主およびステークホルダーに対する情報開示

取締役会検討期間において、当社取締役会は、大規模買付者から大規模買付行為に係る提案がなされた事実とその概要、本必要情報の概要その他の状況および当社取締役会としての意見を速やかに情報開示します。また、必要に応じて、大規模買付者との交渉を行い、当社取締役会として、株主の皆様へ代替案を提示することもあります。

2. 大規模買付行為が行われた場合の対応方針

(1) 大規模買付者が、上記1. 「本プランの発動に係る手続」(2)に定める情報提供および取締役会検討期間の確保その他本プランに定める大規模買付ルールを遵守しない大規模買付行為である場合

当社取締役会は、大規模買付者が大規模買付ルールに従うことなく大規模買付行為を開始したものと認められる場合には、引き続き買付説明書および本必要情報の提供を求めて大規模買付者と協議・交渉を行うべき特段の事情がある場合を除き、原則として、株主意思確認総会を経ることなく、下記5. 「本新株予約権の無償割当ての概要」にその概要が記載される新株予約権（以下「本新株予約権」といいます。）の無償割当て、その他当社取締役会が適切と認めた対抗措置（以下「本新株予約権の無償割当て等」といいます。）を発動します。

なお、当該対抗措置の発動において、当社取締役会は、独立委員会の勧告を最大限尊重するものとし、当該勧告に従うことが取締役の善管注意義務に違反することとなる場合を除き、当該勧告に従うものとします。

(2) 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、原則として、下記3. 「株主意思の確認手続」に記載のとおり、対抗措置の発動の賛否に関する株主意思の確認を実施します。ただし、下記（i）または（ii）に該当する場合は、その限りではありません。

- (i) 大規模買付ルールが遵守され、かつ、当社取締役会が当該買収提案が当社の企業価値ひいては株主共同の利益の最大化に資すると判断した場合

当社取締役会は、仮に当該大規模買付行為に反対であったとしても、反対意見の表明、代替案の提示、株主の皆様への説得等を行う可能性は否定しないものの、原則として、本新株予約権の無償割当て等の対抗措置の発動は行いません。大規模買付行為に応じるか否かは、株主の皆様が当該大規模買付行為の提案内容およびそれに対する当社取締役会の意見、代替案を踏まえ、ご判断いただくこととなります。

なお、対抗措置を発動するか否かの判断において、当社取締役会は、独立委員会の勧告を最大限尊重するものとし、当該勧告に従うことが取締役の善管注意義務に違反することとなる場合を除き、当該勧告に従うものとします。

- (ii) 大規模買付ルールが遵守されている場合であっても、当該大規模買付行為が当社企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に反すると判断される場合

当社取締役会は、当該大規模買付行為について以下の①から⑧のいずれかの類型に該当すると認められる場合には、原則として、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に反すると認められる場合に該当するものと考え、当社企業価値ひいては株主共同の利益の毀損を防止することを目的として、株主意思確認総会を経ることなく本新株予約権の無償割当て等を実施します。

- ① 真に当社の経営に参加する意思がないにも関わらず、ただ株価を吊り上げて高値で株式を当社または当社関係者に引き取らせる目的で当社株式の買収を行っているとは判断される場合（いわゆるグリーンメーラー）
- ② 当社の経営を一時的に支配して、当社の事業経営上必要な知的財産権、ノウハウ、企業秘密情報、主要取引先や顧客等を大規模買付者やそのグループ会社等に委譲させる目的で当社株式の買収を行っているとは判断される場合
- ③ 当社の経営を支配した後に、当社の資産を大規模買付者やそのグループ会社等の債務の担保や弁済原資として流用する予定で当社株式の買収を行っており、その結果、当社に回復しがたい損害をもたらすと判断される場合
- ④ 当社の経営を一時的に支配して、当社の事業に当面関係していない不動産、有価証券など高額資産等を売却等処分させ、その処分利益をもって一時的な高配当をさせるか、あるいは一時的な高配当による株価の急上昇の機会を狙って高値で売り抜ける目的で当社株式の買収を行っており、その結果、当社に回復しがたい損害をもたらすと判断される場合
- ⑤ 大規模買付者による支配権取得の事実それ自体が、当社の企業価値の源泉である重要顧客をはじめとする顧客との継続的な取引関係を破壊し、当社に回復しがたい損害をもたらすと判断される場合
- ⑥ 大規模買付者の経営陣または主要株主に「暴力団による不当な行為の防止等に関する法律」第2条に定める暴力団、暴力団員等の反社会的勢力と関係するものが含まれている場合等、大規模買付者が公序良俗の観点から当社の支配株主

として不適切であると客観的かつ合理的な根拠をもって判断される場合

- ⑦ 大規模買付者の提案する当社株式の買付方法が、強圧的二段階買収（最初の買付けで全株式の買付けを勧誘することなく、一段階目の買付条件よりも二段階目の買付条件を株主様に対して不利に設定し、あるいは明確にしないで、公開買付等の株式買付けを行うことをいいます。）等、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあると判断される場合
- ⑧ 上記①から⑦のほか、大規模買付者が真摯に合理的な経営を目指すものではなく、大規模買付者による支配権取得が当社に回復しがたい損害をもたらすと判断される場合

なお、大規模買付行為が当社企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に反するか否かの判断において、当社取締役会は、独立委員会の勧告を最大限尊重するものとし、当該勧告に従うことが取締役の善管注意義務に違反することとなる場合を除き、当該勧告に従うものとしします。

3. 株主意思の確認手続

当社取締役会は、上記2.「大規模買付行為が行われた場合の対応方針」のとおり、独立委員会の勧告を最大限尊重したうえで、対抗措置の発動、不発動または中止その他必要な決議を行うものとしします。

ただし、独立委員会が対抗措置の発動についての勧告を行うに際して、対抗措置の発動に関し予め株主意思確認手続を行うべき旨の留保を付した場合、また、独立委員会の勧告の内容にかかわらず、当社取締役会が自らの判断で株主意思確認手続を行うべきと判断した場合には、当社取締役会は、本新株予約権の無償割当て等の対抗措置の発動の賛否に関する株主意思の確認手続として、株主意思確認総会における株主投票、または書面投票のいずれかを選択できるものとしします。株主意思確認総会は、定時株主総会または臨時株主総会と併せて開催される場合もあります。

株主意思の確認を行う場合は、当社取締役会は、速やかに、議決権を行使できる株主様を確定するための基準日（以下「投票基準日」といいます。）を定め、投票基準日の2週間前までに公告を行うものとしします。株主意思の確認手続において投票権を行使することができる株主様は、投票基準日の最終の株主名簿に記録された株主様とし、投票権は議決権1個につき1個としします。

当社取締役会は、投票基準日確定までに、①採るべき対抗措置の内容および②株主意思の確認を株主意思確認総会または書面投票のいずれによって行うのかについて決定するものとしします。株主意思確認総会における投票の場合、決議は総株主の投票権の3分の1以上を有する株主様が出席し、その投票権の過半数をもって行うものとしします。書面投票による場合、決議は総株主の投票権の3分の1以上を有する株主様が投票を行い、その投票権の過半数をもって行うものとしします。株主意思の確認手続において、対抗措置の発動について所定数の賛同が得られた場合は、株主様による本対抗措置発動への賛同があったものとしします。

なお、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守し、株主意思確認の手続が開始された場合であっても、株主意思の確認が完了するまでの間に、大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に反するものと判明したときは、当社取締役会は、いつでも株主意思確認の手続を中止し、大規模買付行為に対抗することができるものとしします。

また、当社取締役会が上記の手續に従い対抗措置の発動を決議した後または発動後においても、①大規模買付者が大規模買付行為を中止した場合、②対抗措置を発動するか否かの判断の前提となった事実関係等に変動が生じ、かつ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保および向上という観点から対抗措置の発動が相当でないと考えられる状況に至った場合等には、当社取締役会が対抗措置の中止または発動の停止を決議するものとし、当該決議の概要等について速やかに情報開示を行います。

4. 大規模買付行為の開始

本プランにおいては、大規模買付者は、次の(1)または(2)の場合に大規模買付行為を開始できるものとします。

(1) 当社取締役会が対抗措置を発動しないことを決定した場合

上記2. 「大規模買付行為が行われた場合の対応方針」(2)(i)「大規模買付ルールが遵守され、かつ、当社取締役会が当該買収提案が当社の企業価値ひいては株主共同の利益の最大化に資すると判断した場合」に記載のとおり、当社取締役会が対抗措置を発動しないことを決定した場合、当該決定日の翌営業日から、大規模買付者は大規模買付行為を開始することができるものとします。

(2) 株主意思確認総会または書面投票において、対抗措置発動の承認を求める議案が否決された場合

上記3. 「株主意思の確認手續」に記載の株主意思確認総会または書面投票において、対抗措置発動の承認を求める議案が否決された場合、当該株主意思確認総会日または書面投票日の翌営業日から、大規模買付者は大規模買付行為を開始することができるものとします。

なお、上記に反して大規模買付者が大規模買付行為を開始した場合、当社取締役会はそのことのみをもって対抗措置を発動することができるものとします。

5. 本新株予約権の無償割当ての概要

本プランに基づき発動する対抗措置として、新株予約権無償割当てを実施する場合、その概要は、以下のとおりとします。なお、当社は、原則として、大規模買付者に割り当てられた新株予約権を、他の株主とは異なる対価をもって取得することはいたしません。

(1) 本新株予約権の数

当社取締役会が、本新株予約権の無償割当ての取締役会決議（以下「本新株予約権無償割当て決議」といいます。）において別途定める割当て期日（以下「割当て期日」といいます。）における当社の最終の発行済株式総数（ただし、同時点において当社の有する当社株式の数を控除します。）と同数を上限として、当社取締役会が本新株予約権無償割当て決議において別途定める数とします。

(2) 割当て対象株主

割当て期日における当社の最終の株主名簿に記載された当社以外の株主に対し、その保有する当社株式1株につき本新株予約権1個を上限として当社取締役会が本新株予約権無償割当て決議において別途定める割合で、本新株予約権を無償で割当てます。

(3) 本新株予約権の無償割当ての効力発生日

当社取締役会が本新株予約権無償割当て決議において別途定める日とします。

(4) 本新株予約権の目的である株式の種類および数

本新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とし、本新株予約権1個当たりの目的である株式の数（以下「対象株式数」といいます。）は、別途調整がない限り1株と

します。

(5) 本新株予約権の行使に際して出資される財産の価格

本新株予約権の行使に際してする出資の目的は金銭とし、本新株予約権の行使に際して出資される財産の当社株式1株当たりの価格は、金1円を下限として当社株式1株の時価の50%相当額を上限とする金額の範囲内で、当社取締役会が新株予約権無償割当て決議において別途定める価格とします。

(6) 本新株予約権の行使期間

本新株予約権の無償割当ての効力発生日または本新株予約権無償割当て決議において、当社取締役会が別途定める日を初日とし、1ヶ月間から2ヶ月間までの範囲で、当社取締役会が本新株予約権無償割当て決議において別途定める期間とします。但し、下記(9)

(ii)に基づき当社による本新株予約権の取得がなされる場合、当該取得に係る本新株予約権についての行使期間は、当該取得日の前営業日までとします。また、行使期間の最終日が行使に際して払い込まれる金銭の払込みの取扱場所の休業日に当たるときは、その翌営業日を最終日とします。

(7) 本新株予約権の行使条件

次に記載する者は、原則として本新株予約権を行使することができません。また、外国の適用法令上、本新株予約権の行使に当たり所定の手続が必要とされる者も、原則として本新株予約権を行使することができません（ただし、かかる者のうち当該外国の適用法令上、適用除外規定が利用できる等の一定の者は行使することができるほか、かかる者の本新株予約権も下記(9)のとおり、当社による当社株式を対価とする取得の対象となります。詳細については、当社取締役会において別途定めるものとします。）。

① 特定大量保有者⁹

② 特定大量保有者の共同保有者

③ 特定大量買付者¹⁰

④ 特定大量買付者の特別関係者

⑤ 上記①ないし④に該当する者から本新株予約権を当社取締役会の承認を得ることなく譲受け若しくは承継した者

⑥ 上記①ないし⑤記載の者の関連者¹¹（以下、①ないし⑥に該当する者を「特定買付者等」と総称します。）

(8) 本新株予約権の譲渡

本新株予約権の譲渡による取得については、当社取締役会の承認を要します。

(9) 当社による本新株予約権の取得

(i) 当社は、当社取締役会が対抗措置を発動する手続を開始した後に対抗措置の発動を維持することが相当でない判断した場合には、対抗措置の発動を中止することがあります。具体的には、本新株予約権の効力発生日までは、本新株予約権の無償割当てを中止し、本新株予約権の効力発生日後、行使期間の初日の前日までの間は、当社取締役会が別に定める日において、すべての本新株予約権を無償で取得することができるものとします。

(ii) 当社は、当社取締役会が別に定める日において、特定買付者等以外の者が有する本新株予約権のうち当社取締役会が定める当該日の前営業日までに未行使の本新株予約権のすべてを取得し、これと引き換えに、本新株予約権1個につき対象株式数の当社株式を交付することができます。当社はかかる本新株予約権の取得を複数回行

うことができます。

6. 本プランの有効期間、廃止および変更

本プランの有効期間は、2023年6月23日開催予定の当社第106期定時株主総会において、本プラン更新の承認議案が可決されることを条件として、同承認があった日より発効することとし、その有効期間は、2026年6月開催予定の定時株主総会終結の時までとします。

ただし、かかる有効期間の満了前であっても、当社の株主総会において本プランを変更または廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランは当該決議に従いその時点で変更または廃止されるものとします。また、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されるものとします。

なお、当社取締役会は、法令等の変更若しくはこれらの解釈・運用の変更、金融商品取引所の規則の変更若しくは解釈・運用の変更、または、税制、裁判例等の変更により合理的に必要と認められる範囲で、本プランを修正し、または変更する場合があります。

当社は、本プランが廃止または変更された場合には、当該廃止または変更の事実および（変更の場合には）変更内容その他当社取締役会または独立委員会が適切と認める事項について、情報開示を速やかに行います。

7. 独立委員会の設置

(1) 独立委員会の概要

大規模買付行為が行われる場合、当社取締役会が対抗措置の発動について恣意的な判断を行うことを防止するという観点から、当社取締役会は、独立委員会規程（概要については別紙をご参照下さい）に基づき、当社取締役会から独立した組織として、独立委員会を設置します。

独立委員会は、常設の組織ではなく、大規模買付行為が行われる場合に当社取締役会により設置されるものとします。

(2) 独立委員会の委員構成

独立委員会の委員は、3名以上とし、当社社外取締役の中から、当社取締役会が選任するものとします。

ただし、当社社外取締役が大規模買付行為または大規模買付者と特別な利害関係を有する等の理由により、当社取締役会が社外取締役の中から3名以上の独立委員会の委員を選任することが適切ではないと判断した場合には、当社取締役会は、独立委員会の公正で中立な判断を確保するため、弁護士、公認会計士、学識経験者または他社の取締役もしくは監査役の経験のある社外者等の中から、独立委員会の委員を新たに選任するものとします。

(3) 独立委員会の役割

当社取締役会が対抗措置を発動するか否かの判断をする場合には、その判断の公正さを確保するために、以下の手続を経るものとします。

当社取締役会は対抗措置の発動に先立ち、独立委員会に対して対抗措置の発動の是非を諮問し、独立委員会は、この諮問に基づき、外部専門家等の助言を得ながら、当社取締役会に対して対抗措置の発動の是非について勧告を行います。当該勧告においては、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しているか否か、あるいは、上記2.「大規模買付行為が行われた場合の対応方針」(2)(ii)に記載の①から⑧までの事由の存否を判断するものとします。

この勧告についての決議は、原則として、独立委員会の決議をもって行うものとします。

当社取締役会は、対抗措置を発動するか否かの判断に際して、独立委員会の勧告を最大限尊重するものとし、当該勧告に従うことが取締役の善管注意義務に違反することとなる場合を除き、当該勧告に従うものとします。

Ⅲ 本プランの合理性

1. 買収防衛策に関する指針の要件を充足していること

本プランは、経済産業省および法務省が2005年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）を充足しています。また、企業価値研究会が2008年6月30日に公表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」において示された考え方に沿うものであります。

2. 株主共同利益の確保・向上の目的をもって更新されていること

本プランは、当社株式に対する大規模買付行為が行われた際に、当該大規模買付行為に応じるべきか否かを株主の皆様が判断するために必要な情報や時間、あるいは当社取締役会による代替案の提示を受ける機会を確保すること等を可能にするものであり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって導入されるものです。

3. 株主意思を重視すること

本プランは、上記Ⅱ 6. 「本プランの有効期間、廃止および変更」にて記載したとおり、2023年6月23日開催予定の当社第106期定時株主総会において承認の決議がなされることを条件として更新されるものです。また、本プランの有効期間の満了前であっても、株主総会において、本プランの変更または廃止の決議がなされた場合には、当該決議に従い変更または廃止されることとなります。

さらに、本プランは、独立委員会が対抗措置の発動についての勧告を行うに際して対抗措置の発動に関し予め株主意思確認手続を行うべき旨の留保を付した場合、また、独立委員会の勧告の内容にかかわらず当社取締役会が自らの判断で株主意思確認手続を行うべきと判断した場合には、対抗措置の発動の賛否に関する株主意思を確認し、本プランに基づいた対抗措置の実施について、株主の皆様にご判断いただくこととなっております。

4. 合理的な客観的発動要件を設定していること

本プランは、上記Ⅱ 1. 「本プランの発動に係る手続」および同 2. 「大規模買付行為が行われた場合の対応方針」にて記載したとおり、予め定められた合理的客観的発動要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しています。

5. 独立性の高い第三者の判断を重視すること

当社は、本プランにおいて、大規模買付行為が行われる場合、当社取締役会の恣意的な対抗措置の発動を排除し、株主の皆様のために客観的な判断を行う諮問機関として、独立委員会を設置することとしております。独立委員会は、公正かつ中立的な判断を確保するため、原則として3名以上の社外取締役により構成されます。

独立委員会は、大規模買付行為が行われた場合には、当該大規模買付行為が当社の企業価値・株主共同の利益を著しく損なうものであるか否か等を判断します。そして、当社取締役会は、対抗措置を発動するか否かの判断に際して、独立委員会の勧告を最大限尊重するものと

し、当該勧告に従うことが取締役の善管注意義務に違反することとなる場合を除き、当該勧告に従うものとします。

このように、独立性の高い独立委員会による勧告を尊重することにより、当社取締役会の恣意的な判断を排除し、当社の企業価値・株主共同の利益の確保を図る目的に沿った本対応方針の運用が行われる枠組が確保されています。

6. デッドハンド型若しくはスローハンド型買収防衛策ではないこと

上記Ⅱ 6. 「本プランの有効期間、廃止および変更」に記載したとおり、本プランは、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により廃止することができることから、当社の株券等を大規模に買い付けた者が、当社株主総会で取締役を指名し、かかる取締役で構成される取締役会により、本プランを廃止することが可能です。したがって、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交代させてもなお発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。

また、当社は期差任期制を採用していないため、本プランはスローハンド型買収防衛策（取締役会の構成の交代を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもありません。

Ⅳ 株主の皆様への影響

1. 本プランの更新時に株主の皆様に与える影響

本プランは、株主の皆様が大規模買付行為に応じるか否かを判断するために必要な情報や、現に当社の経営を担っている当社取締役会の意見等を提供し、さらには株主の皆様が代替案の提示を受ける機会を保障することを目的としています。これにより、株主の皆様は、十分な情報を取得して、大規模買付行為に応じるか否かについて適切な判断をすることが可能となり、そのことが株主の皆様のご利益の保護につながるものと考えます。したがって、本プランの設定は、株主および投資家の皆様が適切な投資判断を行う上での前提となるものであり、株主および投資家の皆様の利益に資するものであると考えております。

前述のⅡ 2. 「大規模買付行為が行われた場合の対応方針」において述べたように、大規模買付者が本プランを遵守するか否かにより当該買付行為に対する当社の対応方針が異なりますので、株主および投資家の皆様におかれましては、大規模買付者の動向にご注意ください。

2. 本新株予約権の無償割当て時に株主の皆様と与える影響

当社取締役会または株主意思確認総会において、本新株予約権の無償割当てを実施することを決議した場合には、別途定める割当て期日における株主の皆様に対し、その保有する株式1株につき本新株予約権1個を上限として取締役会が本新株予約権無償割当て決議において別途定める割合で、本新株予約権が無償で割当てられます。仮に、株主の皆様が、権利行使期間内に、所定の行使価額等の金銭の払い込みその他下記3. 「本新株予約権の無償割当てに伴って株主の皆様が必要となる手続」(2)において記載する本新株予約権の行使にかかる手続を経なければ、他の株主の皆様による本新株予約権の行使により、その保有する当社株式が希釈化することになります。但し、当社は、下記3. 「本新株予約権の無償割当てに伴って株主の皆様が必要となる手続」(3)に記載する手続により、特定買付者等以外の株主の皆様から本新株予約権を取得し、それと引き換えに当社株式を交付することがあります。当社がかかる取得の手続をとった場合、特定買付者等以外の株主の皆様は、本新株予約権の行使および所定の行使価額相当の金銭の払い込みをすることなく、当社株式を受領することとなるため、保有する当社株式の希釈化は生じません。

なお、上記Ⅱ 5. 「本新株予約権の無償割当ての概要」(9)に記載したとおり、当社は、本新株予約権の効力発生日までは、本新株予約権の無償割当てを中止し、本新株予約権の無償割当ての効力発生日後、本新株予約権の行使期間の初日の前日までは、無償割当てされた本新株予約権を無償取得する場合があります。これらの場合には、1株当たりの株式の価値の希釈化は生じませんので、1株当たりの株式の価値の希釈化が生じることを前提にして売買を行った投資家の皆様は、株価の変動により相応の損害を被る可能性があります。

3. 本新株予約権の無償割当てに伴って株主の皆様に必要なとなる手続

(1) 株主名簿への記録

当社取締役会において、本新株予約権の無償割当てを実施することを決議した場合には、当社は、本新株予約権の無償割当ての割当て期日を公告します。割当て期日における最終の株主名簿に記録された株主の皆様は、新株予約権が無償にて割当てられるため、株主の皆様においては、当該割当て期日における最終の株主名簿に記録される必要があります。

なお、割当て期日における最終の株主名簿に記録された株主の皆様は、当該新株予約権の無償割当ての効力発生日において、当然に新株予約権者となるため、申込みの手続等は不要です。

(2) 本新株予約権の行使の手続

当社は、割当て期日における最終の株主名簿に記録された株主の皆様に対し、原則として、本新株予約権の行使請求書（行使に係る本新株予約権の内容および数、本新株予約権を行使する日等の必要事項、および株主様ご自身が本新株予約権の行使条件を充足すること等についての表明保証条項、補償条項その他の誓約文言を含む当社所定の書式によるもの）として、その他本新株予約権の権利行使に必要な書類を送付します。本新株予約権の無償割当て後、株主の皆様におかれましては、本新株予約権の行使期間内に、これらの必要書類を提出した上、本新株予約権1個当たり金1円を下限として当社株式1株の時価の50%相当額を上限とする金額の範囲内で当社取締役会が新株予約権無償割当て決議において別途定める価格を払込取扱場所に払い込むことにより、1個の本新株予約権につき、原則として1株の当社株式が発行されることとなります。

(3) 本新株予約権の取得の手続

当社は、当社取締役会が本新株予約権を取得する旨の決定をした場合、法定の手続に従い、当社取締役会が別途定める日において本新株予約権を取得し、これと引き換えに当社株式を株主の皆様へ交付することがあります。なお、この場合、かかる株主の皆様には、別途、ご自身が本新株予約権の行使条件を充足すること等についての表明保証条項、補償条項その他の誓約文言を含む当社所定の書式をご提出いただくことがあります。

上記のほか、割当て方法、行使の方法および当社による取得の方法の詳細につき、本新株予約権の無償割当てに関する当社取締役会の決議が行われた後、株主の皆様に対して公表または通知いたしますので、当該内容をご確認ください。

- 1 金融商品取引法第27条の23第1項に定義されます。以下別段の定めがない限り同じです。
- 2 金融商品取引法第27条の23第1項に定義される保有者をいい、同条第3項に基づき保有者に含まれる者を含みます（当社取締役会がこれに該当すると認めたと者を含みます。）。以下同じです。
- 3 金融商品取引法第27条の23第5項に定義される共同保有者をいい、同条第6項に基づき共同保有者とみなされる者を含みます（当社取締役会がこれらに該当すると認めたと者を含みます。）。以下同じです。
- 4 金融商品取引法第27条の23第4項に定義されます。以下同じです。
- 5 金融商品取引法第27条の2第1項に定義されます。以下②において同じです。
- 6 金融商品取引法第27条の2第6項に定義されます。以下同じです。
- 7 金融商品取引法第27条の2第8項に定義されます。以下同じです。
- 8 金融商品取引法第27条の2第7項に定義される特別関係者（当社取締役会がこれに該当すると認めたと者を含みます。）をいいます。但し、同項第1号に掲げる者については、発行者以外の者による株券等の公開買付けの開示に関する内閣府令第3条第2項で定める者を除きます。以下同じです。
- 9 当社が発行者である株券等の保有者で、当該株券等に係る株券等保有割合が20%以上となると当社取締役会が認めたと者を含みます。ただし、その者が当社の株券等を取得・保有することが当社の企業価値または株主共同の利益に反しないと当社取締役会が認めたと者その他本新株予約権無償割当て決議において当社取締役会が別途定める所定の者は、特定大量保有者に該当しないものとします。
- 10 公開買付けによって当社が発行者である株券等（金融商品取引法第27条の2第1項に定義されます。以下、本脚注において同じです。）の買付け等（同法第27条の2第1項に定義されます。以下、本脚注において同じです。）を行う旨の公告を行った者で、当該買付け等の後におけるその者の所有（これに準ずるものとして同法施行令第7条第1項に定める場合を含みます。）に係る株券等の株券等所有割合がその者の特別関係者の株券等所有割合と合計して20%以上となると当社取締役会が認めたと者を含みます。ただし、その者が当社の株券等を取得・保有することが当社の企業価値または株主共同の利益に反しないと当社取締役会が認めたと者その他本新株予約権無償割当て決議において当社取締役会が別途定める所定の者は、特定大量買付者に該当しないものとします。
- 11 ある者の関連者とは、実質的にその者を支配し、その者に支配され若しくはその者と共同の支配下にある者として当社取締役会が認めたと者をいいます。「支配」とは、他の会社等の「財務及び事業の方針の決定を支配している場合」（会社法施行規則第3条第3項に定義されます。）をいいます。

以 上

独立委員会規程（概要）

1 設置

独立委員会は、大規模買付行為が行われる場合、取締役会の決議により設置される。

2 構成

(1) 独立委員会の委員の人数は、3名以上とする。

(2) 独立委員会の委員は、当社の業務執行を行う経営陣から独立している、社外取締役から選任されるものとする。

ただし、当社社外取締役が大規模買付行為または大規模買付者と特別な利害関係を有する等の理由により、取締役会が社外取締役の中から3名以上の独立委員会の委員を選任することが適切ではないと判断した場合には、取締役会は、弁護士、公認会計士、学識経験者または他社の取締役もしくは監査役の経験のある社外者等の中から、独立委員会の委員を新たに選任するものとする。

(3) 独立委員の選任および解任は、取締役会決議により行う。ただし、解任決議は出席取締役の3分の2以上の賛成によるものとする。

3 委員の任期

独立委員の任期は、取締役会が独立委員を選任した日から取締役会が別途定める日（原則として、大規模買付行為や大規模買付者に対する取締役会の対応が完了すること等により当社取締役会が独立委員会の役割が終了したと判断する日）までとする。ただし、取締役会の決議により特段の定めをした場合は、この限りでない。

4 独立委員会の役割

独立委員会は、取締役会に対し、大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に反するものであるか否か、また、その大規模買付行為に対して対抗措置を発動することが相当であるか否かについて勧告を行う。独立委員会は、かかる勧告を行うにあたっては、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するか否かの観点から判断を行うことを要し、自己または当社の取締役の個人的利益を図ることを目的にしてはならない。

5 決議要件

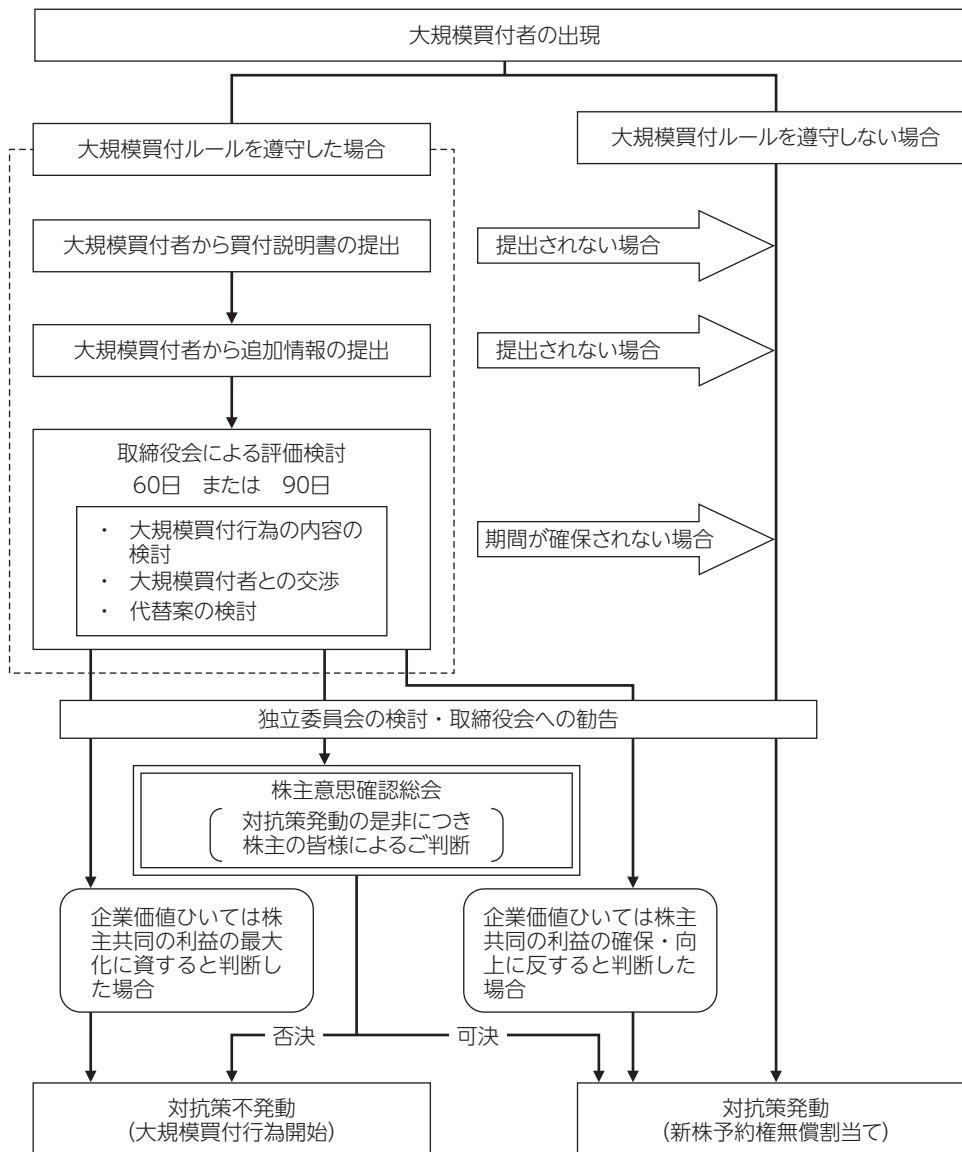
独立委員会の決議は、原則として委員全員が出席し、その過半数をもって行う。ただし、委員のいずれかに事故があるときその他特段の事由があるときは、当該委員を除いた委員全員が出席し、その過半数をもって行う。

6 第三者の助言

独立委員会は、必要に応じて、当社の費用で、独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタント等の外部専門家を含む）の助言を得ることができる。

以 上

(参考資料)



※上記フロー図は本プランの概要を説明するためのものであり、本プランの詳細については必ず本文をご参照下さい。

以上

(ご参考)

取締役会の構成、取締役候補者の選定方針と手続きについて

①取締役会の構成

1. 実質的な議論を行うために適正な人数とします。
2. 取締役会における独立社外取締役を少なくとも3分の1以上選任できるよう努めます。
3. 当社の取締役には、他社での経営経験者・学識経験者などあらゆる分野においてさまざまなマネジメント経験および多様な専門知識を有する人、および製造メーカーとして製造・研究開発・業界の知識を有する人が必要であると考えております。これらを両立し、最善の取締役構成とするため、客観的な視点から、各取締役の知識・経験・能力等を一覧・評価したスキルマトリックスを活用します。

②取締役会が代表取締役・業務執行取締役の選任と取締役候補の指名を行うに当たっての方針と手続

- ア. 当社の取締役候補者は、優れた人格、見識、能力および豊富な経験とともに、高い倫理観を有している者とし、指名にあたっては、性別、年齢、国籍、技能その他取締役会の構成の多様性を勘案して選定する。なお監査等委員である取締役のうち最低1名は、財務・会計に関する直接的または間接的な業務経験を通じて、財務・会計に関する知見を取得した者を候補者とするよう努力する。

取締役候補者の原案の作成は、代表取締役が行う。監査等委員である取締役候補者については、監査等委員である取締役も提案できる。

- イ. 代表取締役・業務執行取締役の選解任は、指名・報酬諮問委員会の答申に基づき、監査等委員会の意見表明がないことを確認したうえで、取締役会において決定する。
- ウ. 監査等委員でない取締役の候補者は、指名・報酬諮問委員会の答申に基づき、監査等委員会の意見表明を踏まえ、取締役会において決定する。
- エ. 監査等委員である取締役の候補者は、指名・報酬諮問委員会の答申に基づき、監査等委員会の同意を経たうえで、取締役会において決定する。

③スキルマトリックス各項目の選定理由

専門性項目	選定理由
企業経営	自動車・電子情報産業など当社の参入市場の環境が大きく変化する中、中期経営計画GGP24に掲げた成長戦略を達成するためには、経営経験・経営実績を持つ取締役が必要である。
財務・会計	適正な決算および財務報告による信頼性を確保しつつ、持続的な企業価値向上や財務戦略の策定のためには、財務・会計分野におけるスキル・知識・経験を持つ取締役が必要である。
事業戦略・マーケティング	市場環境が大きく変化し、事業ポートフォリオ改革を実施するなか、既存顧客への満足度向上、新規顧客開拓の経験を持つ取締役が必要である。また次の柱となる新規事業の立ち上げが不可欠であり、事業戦略・マーケティングに関するスキル・経験を持つ取締役が必要である。
製造・技術・開発	企業理念である「技翔創変」の下、社会・顧客のニーズを捉えつつ既存技術の進化のみならず新規技術の開発が必須である。中期経営計画GGP24で掲げているEV電動化および情報通信といった次世代事業の成長を加速するためには、製造・技術・開発のスキルを持つ取締役が必要である。
海外事業	グローバルでの成長戦略を描き、経営の監督にあたるためには、海外での事業・マネジメントに豊富な経験と知識を持つ取締役が必要である。
法務・ガバナンス・リスクマネジメント	内部統制や先を見越した全社的リスク管理体制を整備し、適切なコンプライアンスの確保とリスクテイクを実現していくためには、法務・ガバナンス・リスクマネジメントにおけるスキル・知識・経験を持つ取締役が必要である。

④スキルマトリックス

本招集ご通知記載の候補者を原案どおりすべてご選任いただいた場合の取締役のスキルマトリックスは次のとおりであります。

氏名	属性				専門性					
	社内／ 社外	性別	年齢	役職	企業経営	財務・会計	事業戦略・ マーケティング	製造・ 技術・ 開発	海外事業	法務 ガバナンス リスクマネジメント
大谷 忠雄	社内	男	62	代表取締役 社長執行役員	●	●	●	●		
奈良 正	社内	男	62	代表取締役 副社長執行役員 開発本部長	●		●	●	●	
金田 雅年	社内	男	62	業務執行取締役 専務執行役員 管理本部長	●	●	●		●	
杉村 和俊	社内	男	60	業務執行取締役 常務執行役員 サスペンション部門長	●	●			●	●
三宅 義浩	社外	男	55	取締役	●		●	●		
鍵谷 文子	社外	女	40	取締役		●				●
小澤 浩子	社外	女	61	取締役	●		●		●	
若林 正二郎	社内	男	63	取締役 監査等委員	●			●		●
山本 英樹	社外	男	64	取締役 監査等委員	●				●	●
田中 敦	社外	男	62	取締役 監査等委員			●			●
平山 廣美	社外	女	72	取締役 監査等委員						●

※年齢は2023年6月23日開催の第106期定時株主総会終結時。

※上記はそれぞれの取締役の経験などを踏まえて、特に専門性が発揮できる分野を記載しており、それぞれが有するすべての経験・スキルを表すものではありません。

メ モ

A series of 20 horizontal dashed lines for writing practice.

メ モ

A series of 20 horizontal dashed lines for writing practice.

メ モ

A series of 20 horizontal dashed lines for writing practice.

当社へのご案内

■阪急電鉄

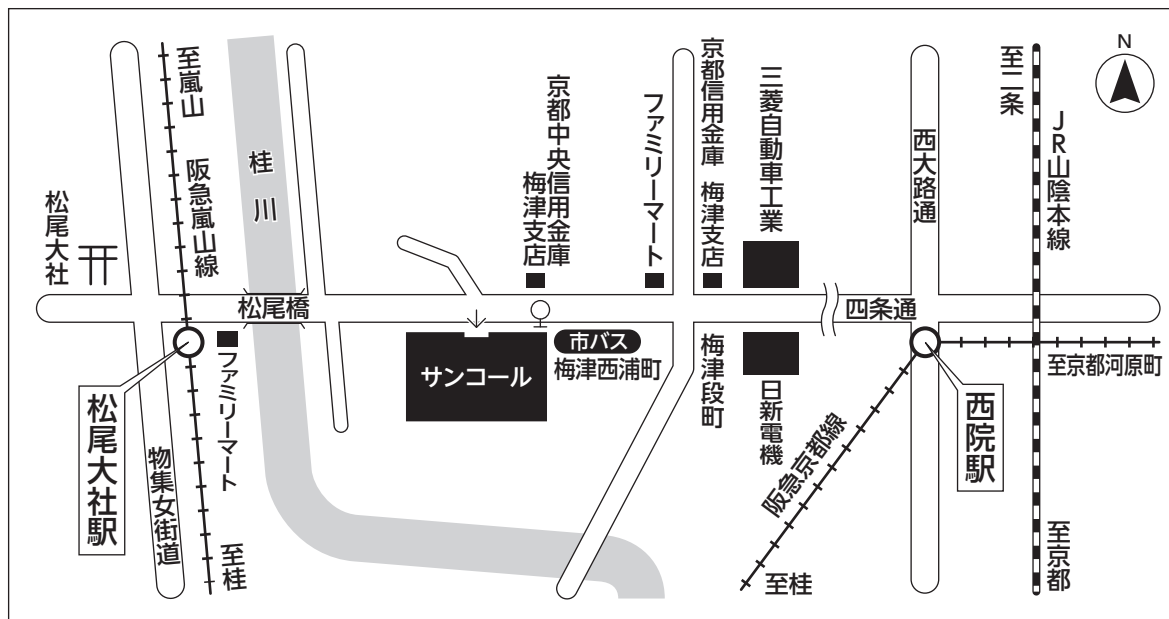
- 嵐山線 松尾大社駅より 東へ徒歩10分

■市バス

- 京都駅より：28系統「梅津西浦町」下車
- 京都駅八条口より：71系統「梅津西浦町」下車
- 西大路四条（阪急電鉄 京都線 西院駅）より：
3・28・29・67・71系統「梅津西浦町」下車

■タクシー

- 京都駅～梅津西浦町…約25分
- 阪急電鉄京都線 西院駅～梅津西浦町…約10分



◎ 株主総会ご出席株主様へのお土産はございません。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。